修士（工学）

**理工情報生命学術院システム情報工学研究群知能機能システム学位プログラム修士論文記述に関する研究**（左寄16ゴチ・太字 英日順）

**Study on University of Tsukuba can accurately adapt to a changing academic environment as it undergoes its own dynamic changes by instilling flexibility**

（↑左寄12p Times New Roman・Bold 最大2行を推奨、氏名との間を１行あける。）

筑　波　太　郎 （←12p） （9p↓→）知能機能システム学位プログラム

TSUKUBA Taro （←12p） Master's Program in Intelligent and Mechanical Interaction Systems

指導教員：　知能 推進，機能 強化，工学 修得（知能機能工学域）（←↓9p）

Supervised by: CHINO Suishin, KINO Kyoka and KOGAKU Shuhtoku (Division of Intelligent Interaction Technologies)

（1行空ける　　※本文が英文の場合、↑著者・指導教員名を英日の順にする）

This paper explains the imis format of master thesis. Standardly, minimum of 8 pages and maximum 24 pages are recommended. If the body text is written in English, English title and English affiliation should come first, then the Japanese. The abstract should be provided in English no matter what language is used in the body text. The data and reference may be included in extra appendix if they can not be included in the body text. This paper explains the imis format of master thesis. Standardly, minimum of 8 pages and maximum 24 pages are recommended. If the body text is written in English, English title and English affiliation should come first, then the Japanese. The abstract should be provided in English no matter what language is used in the body text. The data and reference may be included in extra appendix if they cannot be included in the body text. This paper explains the imis format of master thesis. Standardly, minimum of 8 pages and maximum 24 pages are recommended. If the body text is written in English, English title and English affiliation should come first, then the Japanese. The abstract should be provided in English no matter what language is used in the body text. The data and reference may be included in extra appendix if they cannot be included in the body text.

keywords:keyword-1, keyword-2, keyword-3, keyword-4, keyword-5, keyword-6 <5個程度>

（1行空ける）　（10p Times New Roman, 200～300 words）　本文が日本語・英語に係らず概要は英語で記述

**1　序　　論**

執筆要領について述べる。

1.1 用紙

　A4用紙を縦長に使用する。本文は8ページ（表裏で4枚）以上、24ページ以内を標準とする。

1.2 ヘッダ・フッタ

ヘッダの左側には、「筑波大学大学院博士課程システム情報工学研究群修士論文」につづけて、修了年度・月を括弧書きで記述する。ヘッダの右側には、氏名を記述する。氏名については、見やすくするために適宜空白をいれても差し支えない。

フッタの中央には、ページ番号をハイフンはさんで記述する。

1.3 1ページ目の体裁

申請する学位（修士（工学））を四角囲みで記述し、つづけて修士論文のタイトルをそれぞれ日英表記で記述する。ただし本文が英文の場合、英日の順に記述する。

つぎに、氏名・所属学位プログラムと指導教員名・指導教員の所属を日英表記で記述する。氏名・指導教員名については、見やすくするために適宜空白をいれても差し支えない。ただし本文が英文の場合、英日の順に記述する。

1.4 要約・キーワード

修士論文の概要を記述する。本文が日本語の場合には英語で、そうでない場合には日本語で記述する。



Figure 1 Sample figure

（10.5pで1行空ける）

Table 1 Sample table

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| A | B | C | D |
| a | b | c | d |
| a | b | c | d |

（10.5pで1行空ける）

1.5 本文

本文は2段組みとし、10.5pで記述する。句読点は、各分野で用いられる記号を使用する。

1.6 図表

論文として印刷に耐えうる品質（解像度）の図表を作成する。図表中、および、キャプションは、原則として英語を使用する。キャプションは、図の下と表の上に挿入する。図番号および表番号は、それぞれ Figure 1、Table 1 のように表記する。横長の図・表の場合は、段抜きで挿入してもよい。

たとえば、Figure 1や Table 1を例として示す。

1.8 数式

数式のサンプルとして、(1) を示す。

 (1)

1.7 参考文献

それぞれの分野の記述法により、十分な数の参考文献を引用する1)。著者が執筆した修士論文に関連する内容の論文等がある場合には、必ず文献として引用する。

1.8 著者紹介

学会誌論文の一般的な著者紹介を例に記述する。

1.9 付録

本文には書ききれないデータ・参考資料などは、付録に収めることができる。付録は、研究室で別途保管する。

**2　Word スタイルファイルについて**

このサンプルは、筑波大学大学院システム情報工学研究群知能機能システム学位プログラムの修士論文を Microsoft Wordで作成するためのテンプレートファイルである。必要に応じて、スタイルを指定して使用してもよい。

**謝　　辞**

　本研究は、・・・深謝する。

**参考文献**

1) 工学修, “修士論文の書き方”, 知能機能システム学会論文誌, Vol.1, No.2, pp.34-56, 2015.

筑　波　太　郎

筑波大学大学院システム情報工学研究群知能機能システム学位プログラム所属

----------------------------------------------

・Webで公開する論文の概要は、別に作成する。

・修士論文は両面印刷とする。

・修士論文は、指定されたmanabaの提出先からデータにて提出する。

・論文審査後に、両面印刷したもの（綴じていないもの）を学位プログラムリーダーに提出する。

・学位プログラムリーダーは、学位プログラム全員の修士論文をハードカバーにて製本し、学位プログラム室で保管する。

\*Extended summary is also required for uploading onto the web.

\* The thesis should be printed in double face printing.

\* Submit your thesis in a data format to the manaba.

\* Submit your thesis to the chair of the imis, after it has passed the examining meeting. The thesis should not be clapped.

\* The chair of the imis will bind up all the accepted theses and preserve in his/her office.